学校研究全体計画

１．研究主題と主題設定の理由

確かな力をもち，ともに学び合う子の育成
～国語科を中心とした子どもたちが考える授業づくり～

主題設定の理由

本校は，研究主題を「確かな力をもち，ともに学び合う子の育成～国語科を中心とした子ども達が考える授業づくり～」と設定し，研究の重点を「授業づくり」,「学習基盤づくり」の二点に絞り研究を進めてきた。研究教科を国語科に絞って３年目となる。

昨年度の研究成果として，授業づくりにおいては，つけたい力に応じた言語活動の設定・提示，学習計画や既習の掲示の活用により，学習意欲の向上，課題・見通しの共有化を図ることができた。

また，教科書の本文にサイドラインを引かせて気持ちを書き込むことやノートに考えを書かせることで，本文の叙述を根拠に自分の考えを書いたり話したりすることができるようになってきた。学び合いでは，教師が問い返しを意識することで，児童同士で考えを深め合う姿も見られた。振り返る活動においては，達成感を味わわせることやキーワードの確認，次時につなげる意識を持たせることができた。授業の中で，様々な形式での音読を取り入れたことで，特に１～4 年生で，初見の文をしっかり読めるようになるなどの成果が見られた。

研究授業においては，事前の模擬授業で，発問の吟味や予想される反応の確認や計画の練り直しをし実際の授業に活かすことができたり，思考を促すスキルを学ぶことができたりして，授業改善につなげることができた。本時の指導案の中には，つけたい力に応じたＢ基準を明記し，授業者自身が，Ｂ基準を達成させるための様々な手立てや支援を考え授業に臨むことができるようになった。国語科を中心とし，つけたい力を明確にした授業研究を進めることで，他教科の授業づくりにも活かすことができた。

学習基盤づくりにおいては，ベルスタート，あいさつ，学習の準備といった授業規律の徹底を図り，定着が見られた。全校集会での高学年による授業のデモンストレーションにおいて，授業規律や学び合いにつながる話し方・聞き方についての良い姿を示し，学校全体で目指したい授業を共有することができた。その後，児童の授業に対する意識に変化が見られるようになった。また，学習内容の習熟を図るための計算や漢字プリント，単元テストの達成度を高めることで，それぞれの当該学年の基礎基本の力を向上させることができた。

その一方で，①国語の基礎的な言葉の力（語彙力，文法，漢字）の弱さ
②文章を読み取る力や条件に合わせて書く力，聞く力の弱さ
③児童の考えや学び合いが深まるような教師のコーディネート力

といった課題はここ数年の課題である。昨年度の全国や県の学力テストの結果からも，国語科における基礎基本の力，『読み』に関しての課題はまだまだ多い。

そこで，今年度は，主題も副題も昨年度に引き続き「確かな力をもち，ともに学び合う子の育成～国語科を中心とした子ども達が考える授業づくり～」とし，領域を説明文に絞ることとした。そのことにより，主題にある当該学年で学習する内容を確実に身に付け活用できる「確かな力」がしっかり身に付く授業を目指していくとともに，文章を的確に読み，自分の考えを持ち表現したり，友だちと交流して考えを深めたりできる児童を育んでいきたい。

まずは，年度当初に，説明文における各学年で身につけたい力を明確に示す。説明文の単元では，指導事項を元につけたい力を明確にし，ねらいとＢ基準を設定する。単元を通して，どんな力が付いたかが明らかになるように評価を明確にしていきたい。そして，児童が考えたいと思え，ねらいの達成のためにふさわしい学習課題になっていたかの検証も行っていきたい。学習したことは既習としてその後の授業でも使っていくことを意識し，学びを積み重ねていけるようにしていきたい。

また，単元の中で，学び合いの時間を設定し，児童が考えを深め合えるようにするための教師のコーディネートについても研究を深めていきたい。このような形で授業研究を進めることで，児童一人ひとりの『確かな力』や『ともに学び合う力』を育むようにしていきたい。そして，国語の力をつける一番基本となる音読にも力を入れ，読解力，思考力，判断力，発表力の向上につなげていきたい。

そのための教師の授業力向上校内研修サポート事業を活用したり，他校の研修会等に積極的に参加したりすることを通して授業改善につなげていきたい。教師が児童一人一人の学びを確保し，学力向上プランと連動させ，授業実践し検証を重ねていく中で，国語科における『確かな力』，『ともに学び合う力』をつけることを重点課題と位置づけて研究を進めたい。

２．研究を進めるにあたって

①児童の実態（「学力調査（現４・５・６年）」，「昨年度末の研究の振り返り」アンケート，授業の様授業の様子等から）

〇本文の叙述を根拠に自分の考えを書いたり話したりすることができるようになってきた。

〇まとめや振り返る活動などを行い，達成感を持ち，次時につなげる意識が持てるようになった。

〇「～さんと同じで」，「～さんにつなげて」等，つなげて話そうとする意識が出てきた。

〇授業で音読に取り組み，特に中高学年で初見の文をしっかり読めるようになった。

▲平成３０年度県質問紙調査の「自分の考えを発表したり，話し合ったりすることが好き。」の割合は，６６．７％だった。

▲自分の考えを話したり聞いたりする力が弱く，伝えるまで至らない。

▲語彙力，文法，漢字等の定着が弱い。

▲国語の「読み取り」「条件に合わせて書くこと」が課題。

以上のことから，めざす児童像・授業像を次のように定めた。

②児童につけたい力・めざす児童像・授業像の明確化

※番号は，上記の今年度の３つの課題との関連を示す。

児童につけたい力	めざす児童像	めざす授業像
基礎・基本の力	最後まで文章を読み切ることができる子	目的を明確にした音読を取り入れた授業。
進んで思考し，分かりやすく表現しようとする力	目的や意図に応じで自分の考えをまとめながらよむ子	一人一人が思考する場や表現する機会を設定した授業
ともに学び合う力	友だちの意見や考えをしっかり聞ける子 自分の考えを持ち，相手にわかりやすく伝えられる子	・目的意識・相手意識をもたせ，ともに学び合う授業 ・発問や授業展開を工夫し，児童の学ぶ意欲を引き出す授業

３．研究の重点

（１）授業づくり　　つけたい力（確かな学力）を明確にした授業

①子どもたちが考えたいと思え，ねらい達成のためにふさわしい学習課題を設定する。
②ねらい（Ｂ基準）の達成のために，自分の考えを持たせ，考えを伝え合う。
③振り返る活動を確実に行い，到達状況を見取って，次の指導に生かす。

（２）学習基盤づくり

①授業規律の確立
②生徒指導の３機能を生かした学びの集団作り
③学力向上プランとの連携

４．研究の重点の内容

（１）授業づくり

国語科における『確かな力』をつけるための授業づくりを以下の３つの授業の視点にそって進めていく。

① つけたい力を明確にした授業

授業の視点①	自ら課題を発見し，主体的・協働的に課題を解決する力の育成。【学びの指針２】 →児童の学習意欲を高める課題の工夫
授業の視点②	根拠や筋道を明確に表現する力の育成。【学びの指針３（６）】 →考えを広げ深める対話的学びの場の設定
授業の視点③	学びの達成（学びをまとめる・振り返る）

○思考力・表現力をつける授業（木場小スタンダードの充実）

・子どもたちが考えたいと思え，ねらいの達成のためにふさわしい学習課題を設定する。
・学習計画表や言語活動の提示により，児童と学習の見通しを共有する。
・本時のねらいの達成のために必要な，考えを持ち伝え合う時間を設定する。
・児童の考えを広げ深める教師のコーディネートを工夫する。
・本時の学習課題に応じて，Ｂ基準を設定し評価の方法や手立てを工夫する。
・振り返る活動の充実を図り，自己の変容を自覚させ，達成感と次への課題意識を持たせる。
・つけたい力がついたかどうかの検証を行う。

② 教師の授業力の向上

・各学級年１回の研究授業をし，授業力の向上を図る。その際，事前に模擬授業や全体での授業整理会を行い授業改善につなげる。
・全校集会で，手本となる授業を高学年がデモンストレーションを行い紹介することで，より良い授業や学び合いについて児童自身が考え，全校で目指す姿を共有する。そして，各学級での授業に活かす。
・校内研修サポート事業や他校の研究授業，その他研修に進んで参加し授業力・指導力を高める。校外研修後は他教職員に学んだことを還元する。

（２）学習基盤づくり

①授業規律の確立

・教師も児童も授業の始まりと終わりを大切にする。

・授業が終わったら次の授業の準備をし，授業開始のチャイムで始められるようにする。

・『声のボリューム』カードを教室の黒板の上に掲示し，場に応じた話し方の基本を示す。

②生徒指導の３機能を生かした学びの集団づくり

・お互いの良さを認め合える活動として朝の会や帰りの会で，自分の思いを表現できる場を設定する。

・自信を持たせたり，自分の良さに気づいたりすることができるように，まず教師が自ら児童一人ひとりの良い言動を見つけほめ認める。

・温かい集団作りの為に，エンカウンターやソーシャルスキル等を計画的に行う。

③学力向上プランとの連携

・朝自習と昼学習を，算数・国語の基礎基本の力や活用力を身につける時間とする。

・週１回『がんばりタイム』を設け，習熟が必要な児童への個別指導及び重点指導を級外の補助を入れて組織的に行う。

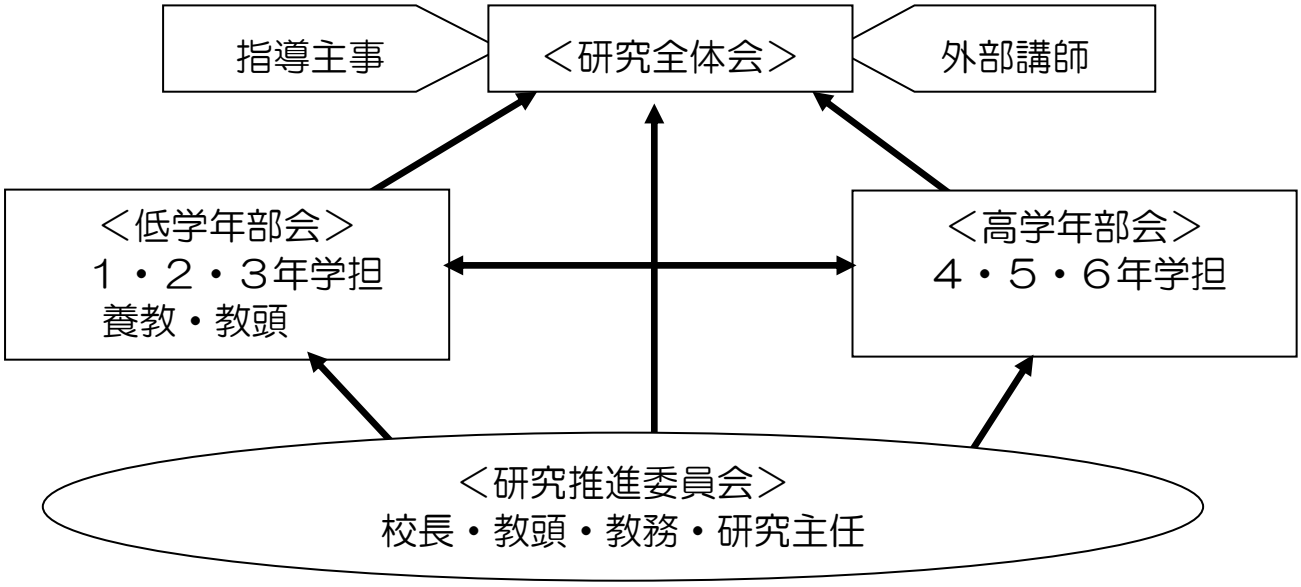
・学校として，国語科で使うノート・ドリル・テスト等を確認する。また，ノートの書き方を統一し，より良いノート作り，より良い学習理解につなげるようにする。テストは活用力の問われるものにし国語の学習の質を確保する。

・全学年で，自主学習を毎日行い，進んで自分のためになる学習ができるようにする。到達した日数により学級で表彰を行いがんばりを認め，更なる意欲を高める。

・教務部の検証と連携をとり，取組を見直しながら，『確かな力』がつく授業づくりをめざす。

・単元テストの到達点数を９０点以上に設定し，当該学年の力の定着を図る。

５．研究組織



６．研究全体構造図

教育目標

豊かな心を持ち確かな学力を備えた，心身ともにたくましい児童を育成する。

めざす児童像

・よく考え工夫する子　・たくましい心と体の子
・思いやりの心で，協力し合う子

研究主題

確かな力をもち，ともに学び合う子の育成

～国語科を中心とした子どもたちが考える授業づくり～

重点（1）
授業づくり

つけたい力を明確にした授業
・児童の学習意欲を高める課題の工夫
・考えを広げ深める対話的な学びの充実
・学びを自覚し，次につなげる振り返り活動の充実

重点（2）
学習基盤づくり

①授業規律の確立
②生徒指導の３機能を活かした学びの集団作り
③学力向上プランとの連携

行事・特別活動

入学式　卒業式
全校集会　運動会
学級活動
児童会活動

日常の活動

朝の会　帰りの会
朝読書　朝自習
朝のスピーチ
昼学習
がんばりタイム
構造的グループエンカウンター
ソーシャルスキルトレーニング

家庭学習の充実

自主学習
家庭学習強化週間
ネットモラル

温かい学びの集団

７．研修計画

★１学年１回の研究授業を行う。

月	内　　容
４月	研究の基本方針・研究主題などの決定，組織づくり，学力向上プランの作成 授業スタイルの確認，研究計画の決定 学習規律の確認・ノートの書き方　　学力調査実施４・６年
５月	研究概要の具体的提案，学習の基盤づくり，指導案の書き方等， 計画訪問　２年　国語科教材研究・研究授業 学力調査の自校採点・分析
６月	全校集会での６年デモンストレーション ６年　国語科教材研究・研究授業
７月	授業改善チェック　　学力向上プランの見直し
８月	研究の検証・分析・改善
９月	１年　国語科教材研究・研究授業 学習規律の確認
１０月	全校集会での５年デモンストレーション ４年　国語科教材研究・研究授業 要請訪問５年　国語科教材研究・研究授業
１１月	３年　国語科教材研究・研究授業
１２月	研究の検証・改善，研究のまとめ提案　　学力調査実施３・５年 授業改善チェック　　学力調査の自校採点・分析
１月	研究紀要の作成，学習規律の確認
２月	本年度の反省，授業改善チェック
３月	次年度の方向性の検討　　次年度のプランの策定